修了プロジェクト

①回顧・発見・邂逅のための journey(必須)(第 4 quarter のうちの 10～20 日間)

本講座の最終段階において、それまでに学んだ成果を自己確認するため、受講者が個別に設計した海外への独り旅を実施する。受講生は、本講座での学習を通じて体得したさまざまな知恵、知識、能力が社会的にどのような内実をもつものなのか、それを確認するために海外(可能な限り英語を母国語とする国、あるいは英語でのコミュニケーションが一般的レベルで可能な国)での独り旅を自主的に設計し、単独で実施する。計画段階において、必ず具体的な目標・課題を設定し、それを達成するという義務を負う。もちろん、この目標・課題については HuSEEC 側の承認を必要とする。また、投与する費用についても制約が課せられる。

もちろん、無謀な冒険ではないので危険性への十分な自己対応、保証が求められるが、日常からの飛躍がテーマとなっているだけに、それまでの日常性からの距離が重要な要素となる。どのような目標・課題を設定してもよいが、できる限り、未来のビジネスに繋がるテーマが望ましい。たとえば、■これまで殆ど知られていなかったが日本人が飛びつきそうな観光資源を発見し、満足度の高いパッケージを設計して現地エイジェントとの提携協議を実施する、■日本食ブームを利用し、現地日本料理屋と提携してアニメ、映画、演劇、音楽等の日本文化の普及拠点作りをする、■現地国の失業者対策として IT や品質管理等に関する研修制度の導入を地方政府等に働きかける、■現地の生活必需品 300 品目について、わが国のそれとの価格差・品質格差のデータベースを作成し、輸出・輸入の可能性にかかわるランキング表を作成する、■現地でロングランを続けているミュージカルやパフォーマンス等について日本公演を企画する、■現地で代表的な日本製品に関するモニタリングを実施し、MD やマーケティングに関する提言書を作成する、等々が考えられる。

こうしたプランについては、事前に関係諸機関等との協議が必要になるし、現地にもたくさんの友人をつくっておかねばならない。そうした基盤づくりを行うこともまた人材としての成長を促す。

作成したプランの内容次第では、提携企業と協議して賛同を依頼し、強い関心・賛同をもってもらった場合には、渡航・滞在費用の全部ないし一部を拠出して頂くことも考えられる。参加者は、渡航期間中、毎日の活動内容・成果・問題等をメールで報告する義務をもつ。また、活動の内容を収録した動画、静止画、音声等の記録も義務づけられる。

期間	10～20 日間
密度	事前企画＋事前準備＋毎日の活動報告
場所	海外
義務	事前計画書＋毎日の活動報告＋報告書
評価	報告提出情況、活動内容等を総合的に評価

③GMAT 講座(AWA)(選抜) (第 3 quarter～第 4 quarter)

英米(近年では豪州、アジア、アフリカ諸国も)MBA 大学院の入学試験で課せられる GMAT、ことに AWA 試験の過去問を徹底して解くとともに関連知識、論理的表現力、記述力等を鍛えるための講座。定員は 5 名程度に厳選する。

AWA で出題される経済、ビジネス関連のドキュメントを 1 回に 10 題程度解くとともに、主題について出題意図、背景事実、ビジネス・トレンド、有効なリソリューション、ケース等について議論する。当初は日本語で解答、解説、討議を実施するが、参加者の語学力の進展に応じて英語での実施に移行する。

受講者とマッチングした企業との協議を経て、成績優秀者(TOEFL_ibt で 110 点以上)については世界 MBA ランキング 20 位以内にある英米 MBA への留学をサポートする。留学費用については、原則として自己負担(奨学金制度活用)とするが、MBA 修了後にマッチング企業への就職を条件として企業側の支援も考慮する。

期間	6 ヶ月
密度	1 週に 1 日、1 日 3～5 時間
場所	研修会場
義務	所定時間拘束と復習
評価	レッスン担当者の評価報告書

④CPA 講座(選抜)(第 5 quarter～第 6 quarter)

CPA とは Certified Public Accountant との略で、米国の公認会計士(わが国の公認会計士とは制度的にかなりの懸隔がるので注意)のこと。CPA 試験の出題範囲（2004 年度以降）は、非常に多岐に渡っており、試験合格を目指すことで企業や事業主体を取り巻くさまざまな環境を会計的な側面からバランス良く学ぶことができると思われる。実際に、米国公認会計士になるかどうかは別として、会計の知識と英語力を同時に磨く為のツールとしては最適と言えるのではなかろうか。

現在、受験センターでのコンピュータ受験となっており、科目別合格制度が採用されている。一般的には 4 年生大学の学士号が必要であるが、州によっては日本の学部在籍中の受験を認めているところもあるし、日本国内での受験も一部州では可能となっている。

本講座は、学士号取得条件を考慮して、1 年コースの延長として第 5 クォーター以降のプログラムとして位置づけているから、既卒者、大学院在学者、あるいはマッチング成立者を対象としている。また、受講の条件として⑥の英文会計講座修了、あるいは BATIC での高得点取得を指定している。

CPA の受験資格、受験地、試験科目、合格科目の有効期間、受験手続き等がきわめて複雑であるため、予め試験制度について徹底した指導を行うとともに、もっとも適切な受験プラン・学習プランを設計する。個別的な学習プランにしたがって、必要テキスト(英文)を配賦するとともに DVD 学習を義務づける。続いて、1 週に 2 回程度の科目別演習問題および過去問等を配賦する。解答が送られてきたら、正答及び課題の解説を送付する(回数は受験予定科目によって異なるが 1 科目 30～45 回)。それが修了した段階で受験手続きに入り、想定出題のシミュレーション演習を繰り返す。

期間	6 ヶ月
密度	基礎学習＋DVD 講座＋1 週に 2 回の演習問題解答
場所	自宅学習＋研修会場での DVD 講座受講
義務	毎週の演習課題提出
評価	課題提出情況、解答得点等を総合的に評価